



2009年6月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

呼吸と酸素と二酸化炭素

医療法人偕行会 豊田共立クリニック院長

天野博史

2009年4月から豊田共立クリニックに赴任しました。よろしくお願いします。

こちらにお世話になるまでは公立の規模の大きな総合病院で呼吸器内科の責任者として勤めていましたので、診療と研修医の指導、院内の管理など非常に多忙な毎日でした。

赴任後は呼吸器内科医としての経験を生かして、透析患者さんのお世話をさせていただいています。

豊田だけでなく、いくつかの他のクリニックにも回診に伺い、偕行会の診療のお役に立てるように努力してまいります。



今回は透析患者の方にも、どうしても必要な呼吸のお話をしようと思います。

呼吸について

呼吸は毎日24時間、生きている限り続けているものです。透析のように何日かまとめてすることはできません。実際、人間は息を止めれば数分しかもちません。それでは、この呼吸というのは科学的にはどういうものかといいますと、体の中で不足している空気中の酸素を取り入れ、体の中にたまった余分な二酸化炭素を体の外に出しているのです。鼻あるいは口から吸った空気は気管を通過して肺の中までは入ります。ここで空気から酸素を血液の中にとりこみ、血液から二酸化炭素を空気中へだします。これを効率よくおこ